

1 R4 までの調査（2023 レッドリスト改訂時点）

調査	収集数	種数	備考
既存調査 (H21～25)	60,428 件	5,366 種	レッドリスト種：465 種 ブルーリスト種：285 種
レッドリスト改訂追加調査 (R1～3.10月)	90,995 件	5,809 種※	レッドリスト種：420 種 ブルーリスト種：276 種

【R5 の調査体制・方針等】（予定含む）

9 分類群 8 部会を設置し、各部会ごとに、**定点における調査や種を絞った調査、産卵期に特化した調査**など、効率的な調査により、**気候変動の影響等の環境変化**をとらえる。

2 調査方法

調査分類群 現行調査	調査方法・場所	考察(中間)
植物	・主に金華山を定点として調査	・気候変動による 雨の降り方の変化 により、山の荒廃、植物の流失懸念
哺乳類	・カヤネズミ(重点)調査	・ 湿地の減少に伴い、生息個体数が減少 ・ 外来種(特にシベリアイタチ)が増加
鳥類	・市内繁殖種調査 ・渡り鳥調査	・ 湿地の減少、水場の減少に伴い、繁殖に影響が出ている種 がある。 ・ 11月でも暑い日が続き冬鳥の渡りに影響 はないか。 ・ 河畔林伐採 の影響がみられる。
爬虫類	・ニホンイシガメ調査	・ 前回捕獲地点で捕獲されなくなった。 ・ 市南部に多く生息していたミシシippアカミミガメ(外来種)が市北部にも多くみられる。 ・ 温度により性別が決定 される。
両生類	・希少種、外来種調査	・ 雨の降り方の変化 により、適期に産卵できず、 死卵が増加傾向 にある。 ・山間部で行った産卵調査において、 以前、産卵が確認できていた地点のうち、確認できない地点が散見 された。
魚類	・コクチバス調査(シュノーケリング、潜水、投網、たも網) ・ミナミテナガエビ調査 ・カワバタモロコ調査	・ アユ等に捕食圧の高いコクチバスの侵入 による生物多様性への影響を懸念。 ・ 気候変動 によるミナミテナガエビ 分布域の変化等 を調査
昆虫類	・希少種、外来種調査	・ 温暖化の影響なのか、昆虫の総数が増加 している印象がある。
貝類	・淡水産貝類、陸産貝類 定点調査	・水際のエリアの 乾燥化 が進んでおり、陸産貝類については、 土壌の水分含有量と種数の相関関係 が判明してきており、 本市の生物多様性の低下が危惧 される。

3 中間報告

- ・全体として、気候変動の影響や外来種の進出などにより、固有種の減少が懸念される。
- ・引き続き調査を継続し、岐阜市の豊かな自然をつぶさに把握する必要がある。

4 現地調査の様子



魚類、甲殻類調査（たも網での捕獲）



両生類調査（湿地等での捕獲）



哺乳類調査（カヤネズミの巣を確認）



貝類調査（水中にいる淡水産貝類の捕獲）

5 調査結果の活用

- ・各分類群ごとに調査結果とともに「生物多様性に迫る4つの危機」に関する考察を含めた報告が提出される。
- ・岐阜市の施策の方向性の決定に資するものとなる。

6 R6 継続調査の予定

調査結果、報告書を精査し、環境変化を捉える調査を継続する予定